

IPSHU 研究報告シリーズ

研究報告 No. 15

中国青年の核意識・平和観・ヒロシマ観

——上海・重慶・北京・広島における
初歩的調査をとおして——

小林 文 男
小 松 出



THE INSTITUTE FOR PEACE SCIENCE,
HIROSHIMA UNIVERSITY

June, 1987

広島大学図書

0130452718



科学研究センター

東千田町1丁目1番89号

241-1221 (内) 3829

中国青年の核意識・平和観・ヒロシマ観

——上海・重慶・北京・広島における
初歩的調査をととして——

小 林 文 男

広島大学総合科学部

小 松 出

桜美林大学

はじめに

昨1985年は戦後40年＝被爆40周年にあたり、本年（86年）は国際平和年であった。当然のことながら、反核・平和を求める世界の良識ある人びとの声は高まり、核大国の一方の雄ソ連の暫定的核実験停止の措置は、内外の関心を集めた。

こうした動きは、アジアにおける核保有国中国においても例外ではなく、本年3月に開催された中国人民平和擁護大会（国際平和年中国組織委員会主催）における趙紫陽首相の演説には、中国の反核・平和・軍縮の政治姿勢がよく示されている。この演説は「軍縮問題についての中国の基本的立場」と題するものであるが、このなかで同首相は米ソ両超大国の核軍拡競争をきびしく非難するとともに、中国は今後、大気圏内の核実験をおこなわない旨を表明したからである。

このことはまた、同年5月、被爆者をふくめた広島市民平和友好訪中団に対して、中国人民平和擁護軍縮協会の責任ある地位の人びとが、つぎのように答えてくれたこととも照応する。

——中国が大気圏内の核実験の中止を宣言したことは私どもが何よりも歓迎していることですが、これは今後とも不変不動の政策と考えてよろしいでしょうか。

区棠亮女史（軍縮協会副主席、全国人民代表大会常務委員）　そうです。たとえ指導者が交替し、時代が変わろうとも、この政策は不変なものです。中国はもとも核兵器をもつ理由も必要もなかったのです。中国は一貫して反核・平和の立場に立っています。

周培源教授（軍縮協会会長、元北京大学総長、第一回バグウオッシュ会議提唱者）　中国はポツダム宣言の起草国の一つであるが、日本を降服させる手段としての原爆使用には当初から反対してきた。その立場は広島への原爆投下に際して、当時、重慶にあった【新華日報】の報道姿勢によく表明されている。われわれは原爆を使用せずとも日本軍国主義を倒すことは可能だと考えていた。以来、中国の原爆観は変わっていない。

このように、国際平和年を期として表出した中国の反核・平和意志はきわめて強く、かつての戦争不可避論を撤回した点とあわせて、われわれとして今後の中

目 次

はじめに

I 調査対象と方法

1. 調査項目
2. 各調査の回答状況

II 分類別調査結果の考察

1. 広島と核 その理解度
2. 平和観とその指向
3. 日中関係 進展への期待度

III 上記以外の個別質問への回答結果

1. 原爆資料館への関心度, 感想他
2. 重慶市民のヒロシマ観——重慶市青年連合会の調査結果——
3. 「自由記述」に見る戦争観・平和観

IV 補編

1. 原爆投下に対する中国共産党の最初の反応（『新華日報』記事）
2. 中国人留学生の被爆体験（由明哲）

国への期待を抱かせるに十分なものがある。中国を核保有国として、米ソ両超大国と同一に見る眼は修正されなくてはならないであろう。

とはいえ、以上のことは政策レベルの問題である。中国の反核・平和意志、とりわけ反核意志がどの程度まで一般民衆レベルに浸透しているのか、とりわけ21世紀をになう青年たちはどうなのか、人間として、個人としてどうなのか、これが問題である。そこで、われわれは直接に中国の民衆を対象として、彼らの核意識がいかなるものであり、そのヒロシマ観がどうであるかについて、の調査を意図した。1985年3月、われわれがとくに許されて上海の復旦大学で、学生を対象にアンケート方式による核・平和意識の調査をおこなったのはそのためであり、以後、2年間に重慶市（青年連合会）、北京市（北京師範大学）、広島市（広島大学中国人留学生）において3回にわたり同様の調査をおこなった。

本稿は、これらの調査から抽出された现阶段の中国の若い世代の核意識・ヒロシマ観の一端であり、ここには政治・政策レベルとは別に、中国の民衆レベルでの「生の声」、「素直な感情」の表出が見られる。初歩的な結果とはいえ、今後、日中の平和問題を考える上での一つの素材になれば、幸いである。本調査に協力して下さった中国の各関係機関、関係者および広島大学留学生諸君に厚くお礼申し上げたい。

なお、中国の原爆観を知る上での参考までに、上記周培源教授の言及された『新華日報』紙の原爆報道記事、および原爆投下時、広島大学（旧文理科大学）において被爆した中国人留学生由明哲氏の体験記を全文訳出し、補編としてかかげた。

1986年12月

I 調査対象と方法

1. 調査項目

われわれの実施したアンケート調査の対象は、つぎの4つの大学と組織の青年層であり、各時期順に紹介すると以下のようになる。

- ① 復旦大学（上海）1985年3月
- ② 重慶市青年連合会（重慶）1985年12月
- ③ 広島大学留学生（広島）1986年3月
- ④ 北京師範大学（北京）1986年5月

これらのアンケート調査は、中国の青年達が平和・核に対していかなる意識を持っているのか、を中心に行った。したがって質問項目の中心は、広島・核・平和・日中関係の4点とした。ただ質問項目は各々共通して設定したものもあるが、対象によって若干の改修を加えたものもある。表1は各調査全質問項である。

〔表1(a)〕復旦大学でのアンケート

- A
- I. あなたは日本の都市広島を知っていますか。
 1. 知っている
 2. 知らない
 - II. あなたはアメリカがかつて広島に原子爆弾を投下した事を知っていますか。
 1. 知っている
 2. 知らない
 - III. どのようにして知りましたか。
 1. 学校で習った
 2. 新聞・雑誌を見て知った
 3. 誰か別の人から聞いた
 4. その他の経路
 - IV. あなたは原子爆弾がつくり出す被害を知っていますか。
 1. 知っている
 2. 知らない
 3. くわしくは知らない
 - V. あなたは核兵器の保有と使用に対して、どのような態度を持っていますか。
 1. 反対
 2. 賛成
 3. 状況によっては保有・使用もよい
 4. その他

B VI. 「平和」という語からあなたはどのようなことを連想しますか。

1. 戦争のない状態
2. 紛争と事件のない社会
3. 生活の安定、幸福な社会
4. 経済の発展した状態
5. 自由に学習できる状況

VI. 「平和」の反対語は何ですか。順番に3個選んで下さい。

1. 戦争
2. 侵略
3. 不幸な家庭
4. 貧困
5. 国内の変動
6. 公害

VIII. あなたは今後の日中関係のあるべき状態はどれだと思いますか。

1. 現在の状態でよい
2. 更に発展すべきだ
3. もうこれ以上発展する必要はない

C IX. 2と回答した人で、あなたは次のどの方面でまず発展すべきだと思いますか。

1. 経済
2. 政治
3. 文化
4. 教育（学生交流を含む）
5. 観光
6. 技術
7. その他

I. 您知道不知道日本城市广岛？

1. 知道
2. 不知道

II. 您知道不知道美国曾把原子弹投在广岛的事吗？

1. 知道
2. 不知道

III. 怎样知道的？

1. 在学校学习的
2. 看报纸杂志等知道的
3. 从别人那里听到的
4. 其他途径

IV. 您知道原子弹造成的损害吗？

1. 知道
2. 不知道
3. 不详细

V. 您对持有和使用核武器、抱什么态度？

1. 反对
2. 赞成
3. 根据情况可以持有或使用
4. 其他

VI. 从“和平”这一词中您会产生什么样的联想？

1. 没有战争的状态
2. 没有纠纷和事件的社会
3. 生活安定、幸福的社会
4. 经济发展的状态
5. 可以自由学习的状态

Ⅶ. “和平”の反义词是什么？按顺序、请选出三个。

1. 战争
2. 侵略
3. 不幸的家庭
4. 贫困
5. 国内的变动
6. 公害

Ⅷ. 我们认为中日关系的发展、对亚州和世界的和平来说是很重要的。您认为今后的中日关系应有的方向是什么？

1. 现在的状态好
2. 应该更发展
3. 不必再多发展

Ⅸ. 回答了“2”的同志、您认为什么是应该最先发展的？

1. 经济
2. 政治
3. 文化
4. 教育(包含学生交流)
5. 观光
6. 技术
7. 其他

〔表1(b)〕 広大留学生に対する質問内容

1. いつ広島へ来ましたか。
2. あなたは、“原爆資料館”を参観したことがありますか。
 1. ある
 2. ない
3. 参観したことのある人は、感想を書いて下さい。
4. あなたは原子爆弾のつくり出す被害について知っていますか。
 1. よく知っている
 2. 知っている
 3. あまり知らない
 4. 知らない
5. あなたはどのようにして知りましたか。
 1. 学校で習った
 2. 新聞や雑誌をみて
 3. 人から聞いた
 4. その他
6. 原子爆弾をうけて死亡した広島市民はどの位でしょう。
 1. 5万人以下
 2. 5万～10万人
 3. 10万～15万人
 4. 15万～20万人
 5. 20万～25万人
 6. 25万人以上
 7. 知らない
7. 原子爆弾が爆発によって作り出す放射性物質が、人体や自然環境に対して被害があると思いますか。

1. ある
2. ない

8. “ある”と答えた方、放射性物質が人体に対して与える被害を下から3個選んで下さい。

1. 死に至る
2. 生命力の衰退
3. 命はとりとめるが、不治の病となる
4. 運動機能をそこなう
5. 内臓に障害を生じる
6. 生殖機能の減退
7. 白血病
8. その他

9. 核兵器の保有と使用に対して、どのような態度をもっていますか。
1. 反 対
 2. 賛 成
 3. 状況によっては保有・使用してもよい
 4. そ の 他
10. 広島市の被爆の実情を中国に理解させるためには、どのようにすべきだと思いますか。

11. 「平和」という語から、あなたはどのようなことを連想しますか。

1. 戦争のない状態
2. 紛争と事件のない社会
3. 生活の安定・幸福な社会
4. 経済の発展した状態
5. 自由に学習できる状況

B

12. 「平和」の反対語は何ですか。順番に3個選んで下さい。

1. 戦 争
2. 侵 略
3. 不幸な家庭
4. 貧 困
5. 国内の変動
6. 公 害

13. 広島市は国際平和文化都市といわれていますが、あなたもそう思いますか。

1. は い
2. いいえ

14. 広島市及び広島大学と中国の友好関係を深めるために、あなたは広島市及び広島大学に何を希望・要求しますか。

C

15. 日本軍国主義侵略戦争の被害を受けた中国人民として、我々が中日不再戦の立場を堅持することや、日本（あるいは広島）について、意見があれば率直に意見を書いて下さい。

1. 您何时来广岛的?

2. 您去参观过“原爆资料馆”吗?

1. 参观过
2. 还没参观过

3. 参观了“原爆资料馆”的同学、请谈谈您的感想。

4. 您知道原子弹所造成的灾难吗?

1. 很知道
2. 知道
3. 不太知道

4. 不知道

5. 您是通过什么途径知道的?

1. 在学校学习的
2. 看报纸杂志等知道的
3. 从别人那里听到的
4. 其它途径

A 6. 受原子弹之害而死亡的广岛市民有多少? 请从下面的号码中选出。

1. 五万人以下

2. 五万~十万人

3. 十万~十五万人

4. 十五万~二十万人

5. 二十万~二十五万人

6. 二十五万人以上

7. 不知道

7. 您认为原子弹爆炸所释放的放射性物质、对人体及自然环境有危害吗?

4. どのような経路で知りましたか。
1. 学校で習った
 2. 新聞・雑誌から
 3. 誰かから聞いた
 4. その他
5. 原子爆弾をうけて死亡した広島市民はどの位でしょう。
1. 5万人以下
 2. 5万～10万人
 3. 10万～15万人
 4. 15万～20万人
 5. 20万～25万人
 6. 25万人以上
 7. 知らない
6. 原子爆弾が爆発によって作り出す放射性物質が、人体や自然環境に対して被害があると思いますか。
1. ある
 2. ない
7. “ある”と答えた方、放射性物質が人体に対して与える被害を下から3個選んで下さい。
1. 死に至る
 2. 生命力の衰退
 3. 命はとりとめるが、不治の病となる
 4. 運動機能をそこなう
 5. 内臓に障害を生じる
 6. 生殖機能の減退
 7. 白血病
 8. その他
8. 核兵器の保有と使用に対して、どのような態度をもっていますか。
1. 反対
 2. 賛成
 3. 状況によっては保有・使用してもよい
 4. その他
9. “平和”という語からどのようなイメージを連想しますか。
1. 戦争のない状態
 2. 紛争や事件のない社会
 3. 生活の安定、幸福な社会
 4. 経済の発展した状態
 5. 自由に学習できる状態
- B
10. “平和”の反対語は何ですか。あなたが最も近いと思う順に3つ選んで下さい。
1. 戦争
 2. 侵略
 3. 不幸な家庭
 4. 貧困
 5. 不安定な国内情勢
 6. 公害
- C
11. 日本軍国主義による侵略戦争の被害をうけた中国公民として、我々が日中不再戦の立場を強くもつこと、又、日本（広島）に対する希望について率直な意見を書いて下さい。

A

1. 您知道不知道日本的城市广岛?

1. 知道 2. 不知道

2. 回答了“1”的同志、请回答下面的问题。

1. 行政城市 2. 工业城市 3. 商业城市

4. 旅游城市 5. 遭受战争灾难的城市

6. 蒙受原子弹灾难的城市 7. 其它
3. 您知道原子弹所造成的灾难吗?
1. 很知道 2. 知道 3. 不太知道
4. 不知道
4. 您是通过什么途径知道吗?
1. 在学校学习的 2. 看报纸杂志等知道的
3. 从别人那里听到的 4. 其它途径
5. 受原子弹之害而死亡的广岛市民有多少? 请从下面的号码中选出。
1. 五万人以下 2. 五万~二十万以下
3. 十万~十五万人 4. 十五万~二十万人
5. 二十万~二十五万人 6. 二十五万人以上 7. 不知道
6. 您认为原子弹爆炸所释放的放射性物质、对人体及自然环境有危害吗?
1. 有 2. 没有
7. 回答“有”的同志、请就放射性物质对人体的危害从下面选出三个答案
1. 导致死亡 2. 生命力衰退
3. 生命尚存、但患不治之症
4. 运动机能残疾 5. 内脏患有疾病
6. 生殖机能减退 7. 白血病
8. 其它
8. 您对拥有和使用核武器抱什么态度?
1. 反对 2. 赞成
3. 根据情况可以拥有和使用 4. 其它

9. 从“和平”这一词中您会产生什么样的联想?
1. 没有战争的状态 2. 没有纠纷和事件的社会
3. 生活安定、幸福的社会 4. 经济发展的状态
5. 可以自由学习的状态

B

10. “和平”的反义词是什么? 请按顺序排列出您认为接近的三个答案。
1. 战争 2. 侵略 3. 不幸的家庭
4. 贫困 5. 不稳定的国内形势 6. 公害

11. 作为蒙受日本军国主义侵略战争之害的重庆市民, 请您就我们坚持日中不再战的立场、或对日本(广岛)有哪些希望、直率地发表意见。

C

このうち、②重慶市青年連合会のアンケート調査は、当初用意した質問紙及び内容はそのままでは用いられなかった。当然のことながらも質問意図・結果共に

異質なものと考えざるを得ないため、ここでは分析対象とはせず、とくに個別項目の章を設け、その調査結果を紹介した（Ⅲの2）。

各表中に分類したように、各質問紙に〔A〕広島と核、〔B〕平和意識、〔C〕日中関係の3種にグループ分けできる。同じ質問項目もあるが、より具体的な答を導き出すために新たに項目を増やしたのものもある。以下〔A〕、〔B〕、〔C〕の分類にしたがって考察・紹介するが、選択式質問項目を中心にいき、自由記述式質問項目については典型例の紹介等適宜行うこととしたい。

2. 各調査の回答状況

①復旦大学でのアンケート調査では、配付数200枚、実回収回答紙184枚、集計可能回答紙¹⁾170枚である。表2-2(a)は集計可能回答紙170枚の男女別・年齢別分布表である。年齢幅が大きいが、江蘇省南通市各種企業派遣の研修生が24名含まれているからである。

③広島大学在学留学生に対するアンケート調査は、配付数72枚、実回収回答紙56枚、集計可能回答紙37枚である。男女別・年齢別分布は表2-2(b)である。対象者は学部生、大学院生、研究生、研究員として在学中のため年齢幅も広い。

④北京師範大学でのアンケート調査は、配付数100枚、実回収回答紙89枚、集計可能回答紙83枚であった。(表2-2(c)参照)

表2-2(a) 復旦大学アンケート回答者の男女別・年齢別分類

	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	31	33	34	36	41	男年齢不明	女年齢不明	合計	男女年齢共に不明	合計
男	-	11	12	24	10	12	3	-	3	3	1	2	1	1	1	1	1	-	5	-	91	6	170
女	3	5	17	26	10	7	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	73			

表2-2(b) 広大留学生アンケート回答者の男女別・年齢別分布

	21	23	24	25	26	27	28	29	31	32	33	35	36	39	44	50	不明	小計	合計
男	-	3	5	1	1	-	4	4	1	-	1	1	1	1	1	1	1	26	37
女	1	3	1	1	-	1	1	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	11	

表 2-(c) 北師大アンケート回答者の男女別・年齢別分布

	17	18	19	20	21	22	23	24	合計	男女別 年齢不明	計
男	1	2	9	16	7	4	—	—	39	3	83
女	1	6	9	8	7	6	2	2	41		

注

- 1) ここでいう集計可能回答紙とは、全選択回答式質問項に対して指示通り、もれなく回答したものを指す。また、自由記述式回答が無記入であっても採用することとした。

Ⅱ 分類別調査結果の考察

1. 広島と核 その理解度

ここでは、被爆都市・広島について中国青年がどの程度理解しているのか、が主要な質問意図である。表3は、①復旦大学での質問Ⅰ・Ⅱ及びⅢ・Ⅳの回答結果である。

表3 ①復旦大学の質問Ⅰ・Ⅱ及びⅢ・Ⅳに対する回答

質問Ⅰ・Ⅱに関する結果

		男	女	男女 不明	合計
質問Ⅰ	1. 知っている	84	69	5	161
	2. 知らない	4	4	1	9
Ⅱ	1. 知っている	89	68	5	162
	2. 知らない	2	5	1	8

質問Ⅲ・Ⅳに関する結果

		男	女	男女 不明	合計
質問Ⅲ	1. 学校	21	15	1	37
	2. 新聞・雑誌	59	44	3	106
	3. 伝聞	7	7	0	14
	4. その他	4	7	2	13
質問Ⅳ	1. 知っている	70	56	5	131
	2. 知らない	3	1	0	5
	3. 詳しく知らない	18	15	1	34

質問Ⅰ・Ⅱでは共に95%前後の回答が「知っている」としている。しかし、同Ⅲ・Ⅳでの原爆のもたらした損害・被害の面では「知っている」とした回答は77%で実態面での知識は低くなっていると思われる。情報経路としては、「各種新聞・雑誌」からが106名、62%、「学校で習った」37名、21%である。それでは、中国での報道及び教育面の中でどれだけ正確な知識としてあつかわれているのか、メディア自体の検証も必要であるが、以上の結果では中国青年の知識の正確さについては不明であった。そこで、③広大留学生、④北京師大に対しては、理解が正確であるかに重点を移し、若干質問内容を具体的にした。

広島についての知識もどの位正確か、特質を選択肢に加えた。次に被爆による死亡者数、被爆による人体への影響についての認識を問うこととした。(前出表1-(b)質問6～8、同表1-(c)質問2及び5～7を参照)

表4-(a)・(b)は③広大留学生の質問1～6の回答結果である。(尚、質問3の

表4-(a) ③ 広大留学生の回答結果

質問1 に関する結果

① 来広年内訳(人数)

昭和	男	女	計
55年	1	1	2
56年	1	0	1
57年	10	0	10
58年	7	1	8
59年	11	5	16
60年	26	8	34
61年	0	1	1
合計	56	16	72

② 集計可能回答者の来広年

昭和	男	女	計
55年	0	1	2
56年	1	0	1
57年	3	0	3
58年	3	2	5
59年	4	2	6
60年	15	5	20
61年	0	1	1
合計	26	11	37

(注) 61年については61年1月来広者。

質問2 に関する結果及び来広年との関係

平和記念資料館見学の有無(人数)

区分	男		女		合計	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
昭和						
55年	0	0	1	0	1	0
56年	1	0	0	0	1	0
57年	3	0	0	0	3	0
58年	3	0	2	0	5	0
59年	2	2	1	1	3	3
60年	6	9	4	1	10	10
61年	0	0	0	1	0	1
合計	15	11	8	3	23	14

表 4 - (b) ③ 広大留学生の回答結果

質問 4 に対する結果

	男	女	計
1. よく知っている	5	1	6
2. 知っている	21	9	30
3. あまり知らない	0	1	1
4. 知らない	0	0	0
合 計	26	11	37

質問 5 に対する結果

	男	女	計
1. 学校で	8	4	12
2. 新聞、雑誌	22	5	27
3. 伝聞	5	3	8
4. その他	5	3	8
合 計	40	15	55

質問 6 に対する結果及び原爆資料館参観の有無との関係

資料館見学の有無 区 分	あ る		小計	な い		小計	合計
	男	女		男	女		
① 5万人以下	0	0	0	0	0	0	0
② 5万～10万人	1	0	1	2	0	2	3
③ 10万～15万人	2	0	2	3	0	3	5
④ 15万～20万人	1	1	2	0	0	0	2
⑤ 20万～25万人	8	4	12	2	2	4	16
⑥ 25万人以上	2	1	3	1	1	2	5
⑦ 知らない	1	2	3	3	0	3	6
合 計	15	8	23	11	3	14	37

結果は後述する。) この調査では、対象者が広島市及び近隣都市在住者であるので、広島市の原爆資料館の参観をメルクマールの1つとした。

質問 1 の「いつ来広したか」は、昭和55年から年々増加し、昭和60年に著しく増加していることを示している。

原爆資料館へ参観したことがある人は、23名、62%である。来広年からみると、58年以前は回答者全員が参観しているが、59年以降はばらつきが目立ち、特に60年は最も来広者が多いにも関わらず、参観者は半数にすぎない。もっとも留学した学部により、西条、福山に分散していることも関係があると思われる。

質問 3 の被爆実態については、「あまり知らない」が1名いるだけで、全員あ

る程度の知識をもっている。また、情報経路としては、「学校で習った」という回答が12名、21.8%、であった。尚、この質問に対して1人で2つ選択した回答もあり総計は55である。「新聞・雑誌」は27名、49.1%と他の調査と比して低い比率である。

次に被爆による死亡者数であるが、現実問題として、正確な数字は確定していない。推定値のワクも出ないが、当時の人口数把握の不正確さ、また、被爆の時期・被爆による死亡者数調査時期等の違いに起因している様である。選択肢の設定では、一応被爆後約5カ月後の死亡者数16万人前後¹⁾、1950年段階では20万人²⁾とされていることに基づいて、選択肢4を考えていた。しかし、厳密な回答を要求したのではなく、具体的にどの位正確に把握しているかが目的であるので、選択肢3～5の範囲を妥当なものとした。

選択肢4の回答数は2名、5.4%、選択肢3～5の回答数23名、62.2%となる。このうち原爆資料館参観者との関係を見ると、選択肢3では5名中2名、40%、同4では2名中2名100%、同5では16名中12名、75%となる。この結果、ある程度の相関関係は認められると思われる。しかし、「知らない」と回答した6名中の3名、50%（集計可能回答紙全体の比率では16.2%）が参観しており、正確な認識と資料館参観の間には明確な相関関係があるとはいえないようである。後述する④北京師大の結果に比して、ほぼ正確な知識を有していると思われる比率は高く、また「知らない」という回答比率も低い、広島に在住している正確な実態把握をしているとは限らないようである。

表5-(a)(b)は④北京師大の質問1～5に対する回答結果である。

83名中82名が広島を「知っている」と回答したのであるが、原爆被災地としての認識は69名、84.1%にすぎなかった。また、実態については、「よく知らない」とした回答は22名、26.5%もある。一方、情報経路としては、「学校」「新聞・雑誌」で計71名、85.5%であった。

次に被爆による死亡者数であるが、選択肢4の回答数は18名、21.7%、選択肢3～5の回答数では計40名、48.2%となる。範囲を拡げても半数にみたく、同時に「知らない」という回答数が33名、39.8%もあり大きな比率を占めている。この回答状況は、当初仮定した様に、中国青年層の被爆実態の把握は正確性に欠け

表 5 一(a) ④北京師大の質問 1・2 に対する回答状況

質問 1

	男	女	男・女不明	合計
広島を知っていますか 1. はい	39	40	3	82
2. いいえ	0	1	0	1

質問 2

	男	女	男・女不明	合計	%
1. 行政都市	0	0	1	1	1.2
2. 工業都市	5	3	0	8	9.8
3. 商業都市	0	0	0	0	0
4. 観光都市	0	0	0	0	0
5. 原爆の被害を受けた都市	1	3	0	4	4.9
6. 原子爆弾の被害を受けた都市	33	34	2	69	84.1
7. その他	0	0	0	0	0

表 5 一(b) ④北京師大の質問 3・4・5 に対する回答状況

質問 3

	男	女	男・女不明	合計
1. よく知っている	3	2	1	6
2. 知っている	27	26	2	55
3. よく知らない	9	13	0	22
4. 知らない	0	0	0	0

質問 4

	男	女	男・女不明	合計
1. 学校で習った	5	11	1	17
2. 新聞雑誌から	31	24	1	56
3. 他の人から	1	4	0	5
4. その他	2	2	1	5

質問 5

	男	女	男・女不明	合計
1. 5万人以下	0	1	0	1
2. 5～10万人	1	1	0	2
3. 10～15万人	5	3	0	8
4. 15～20万人	9	9	0	18
5. 20～25万人	8	5	1	14
6. 25万人以上	3	3	1	7
7. 知らない	12	19	1	33

るものと考えられよう。

つぎの被爆による放射性物質による後遺症についての理解度も同様の質問意図から設置した。③広大留学生，④北京師大ともに設置してある。表6-(a)(b)が結果である。

「放射性物質による自然環境及び人体への影響」については，③広大留学生全員が「ある」とし，④北京師大でも1人だけが「ない」と回答したにすぎず，理解度は高い。

放射性物質が人体に及ぼす具体的障害については，8個の選択肢から每人3個選択してもらった。この選択肢の設置については，正確な認識・知識としてではなく，彼らの認識傾向として，一般的にどう認識されているかを意図した。したがって「その他」以外の7個の選択肢は全て被爆後遺症・後障害の症状と考えられるものをあげた。

結果は，回答数の多い順に「死に至る」，「不治の病」，「生命力の衰退」，「白血病」と，ほぼ一致した回答傾向が得られた。又，この上位4個の選択肢を選んだ回答数合計の比率でみると，③広大留学生で82.9%，④北京師大で81.3%と，高い。少なくとも原爆のつくり出す放射性物質が人体に及ぼす影響は，生命体自体の存続を決定する程重大なものであると認識されているようである。

では，現実の核兵器の保有・使用についての態度はどうであろうか。この設問は全ての調査に共通して設置した。表7は，各々の結果である。

各調査共通した傾向では「状況如何」という回答の比率が高いことである。選

表6-1(a) ③広大留学生に対する回答結果

(1)放射性物質の人体及び自然環境への影響の有無

	男	女	計
1. ある	26	11	37
2. ない	0	0	0

(2)放射性物質の人体へ及ぼす障害

(3つ選択)

	男	女	計
1. 死に至る	18	7	25
2. 生命力の衰退	17	6	23
3. 不治の病	18	7	25
4. 運動機能障害	3	0	3
5. 内臓疾患	3	2	5
6. 生殖機能減退	4	3	7
7. 白血病	12	7	19
8. その他	3	1	4

表6-1(b) ④北京師大に対する回答結果

質問6 放射性物質の人体及び自然環境への影響の有無

	男	女	男・女不明	合計
1. ある	39	40	3	82
2. ない	0	1	0	1

質問7 放射性物質の人体に及ぼす障害 (3つ選択)

	男	女	男・女不明	合計
1. 死に至る	31	34	2	67
2. 生命力の衰退	18	24	1	43
3. 不治の病	26	34	2	62
4. 運動機能障害	8	0	0	8
5. 内臓疾患	7	4	1	12
6. 生殖機能減退	11	7	0	18
7. 白血病	13	13	2	28
8. その他	3	4	1	8

表7 核兵器の保有・使用に対する態度

① 復旦大学の結果

	男	女	男女不明	合計
1. 反対	44	48	4	96
2. 賛成	2	1	0	3
3. 状況如何	43	21	2	66
4. その他	2	2	0	5

④北京師大の結果

	男	女	男女不明	合計
1. 反対	16	25	1	42
2. 賛成	1	0	0	1
3. 状況如何	21	16	2	39
4. その他	1	0	0	1

③広大留学生の結果

	男	女	計
1. 反対	12	7	19
2. 賛成	0	0	0
3. 状況如何	9	3	12
4. その他	5	1	6
合計	26	11	37

択肢4の「その他＝わからない」をも消極的賛成として各々「反対」,「賛成」,「消極的賛成」に区分して比率をあげてみる。

- ① 復旦大学 56.5%, 1.8%, 41.8%
- ③ 広大留学生 51.4%, 0%, 48.6%
- ④ 北京師大 50.6%, 1.2%, 48.2%

となり、原爆の恐ろしさに対してはある程度の認識を持っているにもかかわらず、実際の核兵器の保有・使用に対しては寛容であるように見える。それは、中国が現に核兵器を保有し、核実験を行っていることの反映であると思われる。そして、当然のことながら中国政府の核保有論理³⁾とも対応するようである。すなわち、核兵器は使用するために保有するのではなく、米・ソ核戦略の抑止力として保有するにすぎないというものであり、事実、③広大留学生の回答の中には、選択肢3・4を選びながら、注釈を付し「情況次第では保有してもよい」としたものが5名もいるのである。表8は、③広大留学生のこの「核兵器の保有・使用の態度」の回答と「原爆資料館の参観の有無」の相関表である。選択肢3・4を回答した18名中12名が参観しているのである。中国の核保有論理がいかにか定着して

表8 「核兵器の保有・使用の態度」と「原爆資料館参観の有無」の関係 (③広大留学生)

	人数	資料館参観の有無	
		あ る	な い
1 (反 対)	19	11	8
2 (賛 成)	0	0	0
3 (状況如何)	12	8	4
4 (そ の 他)	6	4	2

いるかのあらわれである。このことは後述する自由記述式の回答の中にも十分うかがえる。

2. 平和観とその指向

中国の青年の「平和」のとらえ方、反応、平和への意識について連想されるイメージから考察を試みた。質問内容は「平和」という語から連想されるものは何か、「平和」の反対語として連想するものは何か、であり各々の調査に共通して設問した。結果は表9・10である。

「平和」を「生活の安定・幸福な社会」とイメージする回答が多く、次に「戦争のない状態」、「経済の発展した状態」の順とするのは、①復旦大学と④北京師大に共通して見い出される傾向である。一方、③広大留学生の結果は、「戦争のない」、「生活の安定・幸福な社会」の順であり、ほぼ同数であった。が、「経済発展」が少ないことは各々共通しており、単に経済至上主義的社会を理想としてはいない様である。

「平和」の反対のイメージとしては、「戦争」、「侵略」、「国内の変動」の順で、各々共通してあげられている。この3個の選択肢に共通するものは「混乱した社会」であり、受け身の概念である。最も身近かな経験でいえば「国内の変動」＝文化大革命、である。現在では、「混乱した10年」と評価され、中国国内各分野にわたって損失は大きく、単に停滞したのではなく、後退したとされている。現在の近代化路線は、その修復をも含めて行われており、各種問題を複雑化

表9 「平和」という語から何を連想しますか

③広大留学生に対する結果

	男	女	計
1. 戦争のない	16	6	22
2. 紛争のない	2	0	2
3. 生活安定	14	6	20
4. 経済発展	0	1	1
5. 自由学習	0	1	1
合計	32	14	46

①復旦大学に対する結果

		男	女	男女不明	合計
質問 VI	1. 戦争のない状態	36	21	2	59
	2. 紛争と事件のない社会	0	2	0	2
	3. 生活の安定幸福な社会	53	43	4	100
	4. 経済の発展	2	4	0	6
	5. 自由に学習できる状況	0	3	0	3

④北京師大に対する結果

	男	女	男女不明	合計
1. 戦争のない状態	21	6	1	28
2. 紛争と事件のない社会	0	0	0	0
3. 生活の安定幸福な社会	14	31	2	47
4. 経済の発展	3	4	0	7
5. 自由に学習できる状況	0	0	0	0

させる要因となっている。であるからこそ、中国にとってはこの「混乱した10年」は取り返しのつかない程の意味を持っている。

表11は、①復旦大学での結果であるが、青年層でも当時中学生以上の回答者が敏感に反応しており、事実あらゆる面で実害を蒙っていよう。各調査の回答者の年齢バランスで見ると、影響が身近かに及んだ年齢層が最も多いのは③広大留

表10-(a) 「平和」の反対語は何ですか (3個選択)

①復旦大学での結果

(延べ実数)

		男	女	男女不明	合計
質問Ⅵ	1. 戦争	89	73	6	168
	2. 侵略	79	55	4	138
	3. 不幸な家庭	15	19	1	35
	4. 貧困	30	10	1	41
	5. 国内の変動	42	46	5	93
	6. 公害	18	16	1	35

(順序別)

		第1番目			第2番目			第3番目		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
質問Ⅵ	1. 戦争	82	69	151	5	4	9	2	0	2
	2. 侵略	7	4	11	70	49	119	2	2	4
	3. 不幸な家庭	0	0	0	6	9	15	9	10	19
	4. 貧困	0	0	0	4	3	7	26	7	33
	5. 国内の変動	1	0	1	4	7	11	37	39	76
	6. 公害	1	0	1	2	1	3	15	15	30

(ここでの質問Ⅵの数字は1人当り3个回答した延べ実数である。)

③広大留学生に対する結果

(延べ実数)

	男	女	計
1. 戦争	26	11	37
2. 侵略	24	10	34
3. 不幸な家庭	4	3	7
4. 貧困	6	2	8
5. 国内の変動	18	7	25
6. 公害	0	0	0
合計	78	33	111

(順序別)

		一			二			三		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	22	11	33	4	0	4	0	0	0	
2	4	0	4	20	10	30	0	0	0	
3	0	0	0	1	1	2	3	2	5	
4	0	0	0	0	0	0	6	2	8	
5	0	0	0	1	0	1	17	7	24	
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表10-(b) 北京師大に対する結果

(延べ実数)

	男	女	男女不明	合計
1. 戦争	38	41	3	82
2. 侵略	34	31	3	68
3. 不幸な家庭	5	6	0	11
4. 貧困	6	8	0	14
5. 不安定な国内情勢	30	32	2	64
6. 公害	4	5	1	10

(順序別)

		第1番目			第2番目			第3番目		
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
1. 戦争	34	34	69	4	7	11	0	0	0	
2. 侵略	5	3	8	26	23	49	3	5	8	
3. 不幸な家庭	0	0	0	4	0	4	1	6	7	
4. 貧困	0	0	0	3	2	5	3	6	9	
5. 国内の変動	0	3	3	2	9	11	28	20	48	
6. 交差	0	1	1	0	0	0	4	4	8	

表11 「国内の変動」と答えた者の1966年を基準とした年齢・男女別分類

①復旦大学の結果

	男	%	女	%	計
17～18歳	4	36%	5	63%	9
19～26歳	31	46%	41	67%	72
27歳～	4	50%	0	0%	4

学生、ついで①復旦大学、最も少ないのが④北京師大である（前出表2-(a)×(b)×(c)参照）。社会全体の混乱した状態を知っている層にとって「生活の安定・幸福な社会」の前提は社会の安定といえよう。即ち、「生活の安定・幸福な社会」と「戦争のない状態」は基本的には同一の反応と見ることができよう。また、それは現在の近代化政策の中での青年個々人の自負であり、意欲のあらわれとも解せよう。

3. 日中関係 進展への期待度

復旦大学での調査では選択式と自由記述式両方設問した。選択式の回答結果は表12である。しかし、自由記述式に対する反応が内容・質ともに予想以上であったために、以後は自由記述式だけを設問することとした。復旦大学の結果をみても、日中関係は今後更に発展して欲しいが、無条件なものではなく、日本に対する要求、不満が前提としてあるようである。素直な反応の中には、さまざまなものがあるが、それも青年層にとっての日本のイメージであると思うからである。

③広大留学生、④北京師大に設けた質問内容は同一のもので、日中不再戦の賛否、日本への希望を記述してもらった。これらを分類するのは困難であるが、大別すれば次の3点にまとめることができる。(a)現在の日中関係の各方面にわたる不等性を論じたもの、(b)具体的な文化・経済交流のあり方や真の相互理解を問題にしたもの、(c)戦争責任及び日本での歴史認識を論じたもの、である。以下その典型例を若干紹介し、他のものはすべてⅢで紹介する。

表12 ①復旦大学の質問Ⅷ, Ⅸについての結果

		男	女	男女不明	合計
質問 Ⅷ	1. 現在のまま	4	0	1	5
	2. 更に発展	76	73	5	154
	3. 不必要	11	0	0	11
質問 Ⅸ	1. 経済	33	35	2	70
	2. 政治	1	1	1	3
	3. 文化	11	3	0	14
	4. 教育	12	17	1	30
	5. 観光	4	2	0	6
	6. 技術	15	15	1	31
	7. その他	0	0	0	0

③広大留学生

(a)「国民に優越感を与えるため、ひいては国内安定に貢献するために中国をけなしてはなりません。」(男性 23歳 日本語)

「我々は日本軍国主義の直接の“受害者”とは違う。“日中不再戦”と言っている方は今、中国に対して経済的には恐ろしい“敵”である。今、中国はその害を受けている。この害を解消することは今日一番努力すべき所ではないか。」(男性 25歳 日本語)

(b)「侵略はもう過去の歴史で、これから互いに心を開けて、理解を深めていくことが大切だと思います。日中不再戦はとても素晴らしいことで、それだけ日本を中国の関係が良いから言えることで、これからいろいろな摩擦、誤解も出てくるかもしれないが、それらを解消する為に互いの理解が必要です。」(男性 22歳 日本語)

「私は、日中不再戦の主張に大賛成です。ただ、これが1つのスローガンでなく、実際行動をとまなうことを希望します。(女性 25歳 中国語)

(c)「広島ではとくに平和への呼びかけがよく聞える。これはもちろんいいことです。真の平和を実現するよう呼びかける時に、日本の皆様に過去の侵略戦争への反省を前提として行っていただきたい。子供に日本が戦争被害者だというこ

とだけでなく、加害者でもあったことをも真剣に教えていただきたいと思います。」(男性 28歳 日本語)

「私は長い間、日本といえば頭の中に、鉄カブトをかぶって腰に日本刀をさして首をはねる日本兵の姿が浮かびました。当然、現状では再び日中間で戦火を交える可能性は小さいが、この種の悲劇の根源を根絶するため、より広範に中日人民の歴史的に長期にわたる友好伝統のことを宣伝し、且つ中国人民も広島・長崎の市民が原子爆弾で受けたと同様の災禍を日本軍国主義から受けたことを知らせるべきです。」(男性 年齢不明 中国語)

「本当の意味での反侵略教育が進められるべきだ。戦争経験者は、責任は国に、天皇にと言ひ、若い世代は我々の責任ではない関係ないと言ひ出すと、平和教育は対象と理念を失うことになる。この断層的現象は最も憂うべきことであることを深刻に考慮すべきである。」(男性 29歳 日本語)

「日中不再戦の立場を堅持することは、日本の50歳以上の人は皆熱望されるが、30歳以下の人にとってはそれほど重大なことではないようだ。とくに日本ではまだ少数の人が『東亜聖戦』や『大東亜共栄圏』の古い夢を回憶している様な情況なので、反戦宣伝を強め、更に多くの日本人、特に青少年に過去の戦争の真の姿を理解させることは、今後の平和にとって大変有意義なことである。」(男性 44歳 中国語)

④北京師大

(a) 「日中両国が平和共存すること、また日本が中国人民の感情を尊重することを希望する。」(女性 20歳 中国語)

「もし日本が中国侵略戦争で中国に与えた巨大な損失を賠償すれば、私は日中不再戦の観点を認めよう。そうでないならフビライの回答が私の回答である。損害賠償、これが私の日本への要求である。」(男性 20歳 中国語)

(b) 「日中不再戦に賛成である。しかし、日中貿易で、不名誉な手段を使って、中国側官吏にわいろをつかわないでほしい。」(女性 19歳 中国語)

「なぜ日本は30・40年代の古い機械をだまして中国に売ったのか。もし軍国主義が再度復活すれば、今度は我々はちゃんと準備をしておく。」(男性 20歳 中国語)

(c)「正直に言えば、戦争の体験を受けなかった私は、日本軍国主義のひどさは、本か他人から耳にたこができるほど聞いたので、これからは好戦的な日本が望ましくない。」(女性 24歳 日本語)

「日中不再戦の主要な問題は日本の方にある。日本政府はこれからの世代の日本人全てに日本軍が中国で行ったいまわしい大罪についてわからせねばならない。これこそが日中友好の第1の保証である。戦災をうけた中国人は戦争に反対である。しかし我々は戦争は恐くない。戦争の準備はできている。」(男性 20歳 中国語)

注

- 1) この数字は、『広島原爆戦災誌』に発表された資料を重要な基礎としているとされ、「広島原爆爆発時に市内にいた日本人は約42万人で、そのうち約15万9千人(被爆人口の38%)が約5カ月後の12月末までに死亡した。」とある。広島県『原爆30年』昭和51年3月、第84～85頁。
- 2) 広島平和文化センター編 『平和事典』 1985年、勁草書房 403頁。
- 3) ここで中国の核保有の論理を改めて確認しておく必要がある。1964年10月16日、第1回目の核実験に成功した中国は、つぎのような政府声明を発表している。
「自由の防衛はいかなる主権国家にとっても剝奪することのできない権利である。世界平和の擁護は平和を愛するすべての国家の共同の責任である。日ましに増大するアメリカの核威嚇に直面して中国はじっと手をこまねていることはできない。中国が核実験をおこない、核兵器を開発するのは迫られて余儀なくするものである。中国政府は一貫して核兵器の全面禁止、完全廃棄を主張してきた。もしこの主張が実現されていたなら、中国はもともと核兵器を開発する必要がなかった」

Ⅲ. 上記以外の個別質問の回答結果

1. 原爆資料館への関心度、感想他

各々のアンケート調査は、前述した様に大別すれば3種の意図から行った。その実施にあたっては中国側各機関の人々の協力を得たことはもちろんであるが、日本においても機会を与えてもらった。それは、広島市からの委託研究であるが、③広大留学生、後述する「重慶市青年連合会」の調査は、この機会を利用して行った。また、④北京師大の調査では、その時作成した質問紙を利用した。したがって、内容において国際文化交流都市・被爆都市広島市の今後の国際交流面での位置・役割を検討することを目的の中に入れた。③広大留学生に対する調査でいえば質問3, 10, 13, 14である。以上の4個の回答結果を紹介する。全て自由記述式で回答を求めた。

質問3は「原爆資料館への参観の感想」である。大きく分類すれば次の3種となる。(a)参観したことによって被害の実情を知り、ショックを受けたもの。(b)南京大虐殺を想起し、大虐殺や日中戦争との関連においてとらえたもの。(c)戦争一般論の中で冷静に受けとめるもの、である。以下、典型例を若干紹介する。

(a)「見学する前、新聞や映画などで原爆をはじめとする核の恐ろしさを見聞していたが、初めて見て非常にショックを受けた。実際にあった悲惨は資料館の何百倍以上もあることを考えると、二度とこういう悲劇を再現してはいけないと思う。」(男性 29歳 日本語)

「一種の非常に痛ましい感覚を持っている。特に、大型の模型と写真を見た後は、これらの不運な人々が瞬時に遭遇した大きな苦難を思って、私の心は重かった。これは、戦争が人民にもたらした災難であると思う。全ての理性と良知を持つ人であれば、この資料館を訪れた後、平和を大切にし、自覚的に平和擁護運動に参加すべきだと思う。」(男性 24歳 中国語)

(b)「私は南京大虐殺の方が広島の原子爆弾よりも悲惨だったと思う。」(女性 32歳 中国語)

「私は、まだ資料館に行っていないが、中国にいる時何度も原爆について見

聞いたことがある。しかし、これに比して、日本人の南京大虐殺に対する理解は少なすぎる。私たちは、決して過去を忘れないだけでなく、かつて日本の侵略軍が中国で犯した人間性を破滅させる罪行を、現代の中国人と日本人に理解させる必要と義務があると思う。」(女性 23歳 中国語)

「核戦争の恐ろしさと残酷さを感じていると同時に、全ての戦争を廃除しなければならないと痛感する。それに、資料館を見学する度に被爆の人々の姿を表す写真を見ながら、南京大虐殺の様子を映す写真を思い出します。」(男性 28歳 日本語)

「第2次大戦中、日本軍国主義者は侵略戦争を引き起こし、中国の一千万人以上の人民を戦火と、日本人軍隊の暴力のもとに殺した。しかも、日本人民も原子爆弾によって殺された。このことから、まず軍国主義の復活を許さないこと。次に核兵器を消滅させること、の2点が大切である。」(男性 50歳 中国語)

(c)「私は、まだ資料館に行ったことがないが、この事件の概要は知っている。第1に、これは日本の少数の野心家と軍国主義分子とが引き起こした戦争の火が日本の平和な住民の身を焼いたものであること、第2に、これはアメリカ帝国主義が核に依拠して世界に覇を唱えようとした犯罪行為であり、アメリカ帝国主義が正義の戦争を非正義の戦争に変えた最初の転換点であったこと。第3に、これは戦争狂の全人類に対する犯罪であること。」(男性 28歳 中国語)

「私は資料館で幾つもの悲惨な情景を見た。しかし、私は驚かなかった。というのは、これが戦争の必然の結果だと知っているからだ。中国での戦争では、より非人道的な事件が発生している。結果と教訓とは全て人民のものである。指導者は特に醒めた頭脳を持つべきだ。」(男性 24歳 中国語)

以上が典型例であるが、(b)と(c)は特に区別する必要はなかったのかもしれない。中国人留学生の、こうした反応から推察できることは、被爆の惨禍を特に核の恐怖だけに限定することなく、南京大虐殺を含む戦争の持つ非人道性から理解しようとしていることである。そこには、同じ戦争の被害者としての立場と同情、連帯感がある。しかし、それ以上に南京大虐殺に代表される日本侵略軍による蛮行を忘れてはいないし、許してはいない。ヒロシマ＝被爆を語る前に日中戦

争を、南京大虐殺を忘れてはならない、ということであろう。次に質問10にもこの傾向が回答に見いだせる。

質問10は、広島の被爆の実情を中国に、理解させるにはどういう方法をとるのが効果的であるかを設問した。回答は次の2種に分けられる。(a)伝達の方法・手段を論じたもの。(b)ヒロシマ=被爆の意味について論じたもの、である。以下、紹介する。

(a)「資料館内を中国にTVで放映する。資料を小冊子にして中国で出版する。被爆者や被爆の後遺症のある世代に中国へ行ってもらい、中国の人民に原爆の被害を理解させる。」(男性 36歳 中国語)

「一つ一つの交流機会を生かして、被爆について全面的に語ることです。市民間においては“草の根”方式を重視することです。中国の青少年たちにアピールして理解を深めてもらうために“夏令营”(キャンプ)に広島の青少年を派遣するのが効果的だと思います。」(男性 23歳 日本語)

「やはり、中国で理解してもらうには代表団を送るのがよいと思います。被爆者の人を、今年は国際平和年であることを利用して中国へ派遣することです。」(男性 22歳 日本語)

「小学教育のうちから学生に詳細に原爆が広島・長崎にもたらした重大な災難を教える。そして、学生たちが小さいうちから戦争を憎み、平和を熱愛するようにさせる。」(女性 25歳 中国語)

(b)「私は、中国は現在広島の被爆の実情について充分に知っていると思う。原爆の被害は戦争の惨禍の一部であるという認識の方がさらに重要だと思う。即ち、原爆の被害だけを宣伝するのではだめで、原爆の被害と戦争とを分離させるのは有害である。原爆の非難と戦争の非難は同時に行わねばならない。」(男性 28歳 中国語)

「中国人民は皆、広島に被爆のことはよく知っています。同時に戦争の犠牲者としての日本人民に同情もします。しかし、日本帝国主義が中国人民の身の上に与えた重大な災禍を想起します。必要なのは、中国人民に“広島被爆の実情”を知らせるだけでなく、中国人民に日本政府と人民が中日友好のためにどのように努力し、実際に行動するのかを知らせるべきだと思います。」(男性

28歳 中国語)

「そういう必要はないと思います。中国人民も長くて残酷な戦争の受難者でした。我々は戦争の災難がよくわかっています。」(男性 28歳 日本語)

「まず、日本人民に日本の中国侵略が中国にいかに関与したかを理解させることです。特に南京大虐殺。それによって始めて、中国人民は原子爆弾の被害にあった日本人民に同情することができます。広島は被爆は、日本軍国主義が侵略戦争を始めたことによって起こったのです。侵略戦争での中国の損失は日本のそれより大きく、更に強めた。広島が被爆について主張するだけなら、日本は第2次大戦の被害者である。そうであれば、私は大いに反対し、憎悪すらする。ただ、被害を語るだけで、被害を受けることになった原因を語らないならば、決して人を信用させることはできない。原子爆弾は南京で爆発しなかった。しかし、30万人の中国人は日本軍の軍刀により殺されたのであり、この数字は広島で被爆により死亡した人の数よりも多いのである。」(男性 50歳 中国語)

以上が質問10にみられた典型的回答例である。(a)については、紹介したように、マスメディアの利用、人的交流の強化、教育面での体系的な取りくみが指摘されている。しかし、被爆の被害を核＝原子爆弾の問題だけでとらえるのではなく、戦争の中に位置づけている。(b)では、こうした傾向がより明確であり、日本側の、広島としての中国に対する、また、日中戦争に対する態度・認識を問題としている。日本が加害者であったことの正しい認識の上に立つべきだとしている。

質問13と14では、国際平和文化都市・広島市と広島大学への要望等を述べてもらった。まず、質問13では広島市を「国際平和文化都市」であると思うか、というものである。結果は表13である。ほとんどの留学生が肯定しているが、否定している4名は次の回答の中に、その理由を述べている。内容としては、(1)留学生に対して生活・学習環境・設備が悪すぎる。これは、市にも責任がある。(2)「国際平和文化都市」と称しながら、世界の国々のこと、特に中国の実情などに無知・無関心である、等である。

質問14は、(a)交流の促進・強化について、(b)中国のことを市民にもっと紹介し

表13 広島市を国際平和文化都市と思うか

区 分	男	女	計
①思う	24	9	33
②思わない	2	2	4
合 計	26	11	37

てほしい、(c)友好関係に対する姿勢について、の3種に回答が大別できる。以下、典型例を紹介する。

- (a)「双方の国民の相互交流を強化する。広島市に対しては、市民を組織して中国を訪問してもらい、中国の変化の様子を理解してもらい、広島大学に対しては、中国の各大学と学術交流を深める。たとえば、留学生の相互派遣、教官の相互交換、各種学術会議の開催である。」(男性 29歳 日本語)

「広島市と広島大学は共に、中国と行政・貿易・経済の上で交流を促進すると同時に、両国人民間の直接的な交流の促進も重視してもらいたい。そしてまた、中国をもっと紹介して日本の青年に中国のことを——中国は決して貧しい後れた国家ではなく、国民は幸福であり、安定した生活を送り、発展はすさまじく、平和を愛し、日本との間に永遠の友好関係の歴史があることを、理解させてほしい。」(男性 24歳 中国語)

「広島市には、例えば中国の都市と友好関係を結ぶとか、もっと中国のことを知っていただきたい。できれば“えらい”人の交流だけでなく、一般市民の交流を深めてほしい。広大には同じことが言えますが、向こうの大学と結んで、種々の研究交流などをしてほしいと思います。」(男性 22歳 日本語)

- (b)「日本人、特に日本の青年は中国の実情について無知な人が多いというのが私の感想です。ですから、広島市はより多くの機会を作り、中国を理解させることを望みます。」(女性 23歳 中国語)

「広島市は中国に人を派遣して、日本にないものを学ばせるべきです。現在、多くの分野(技術)で日本に及ばないが、中国にも、もっとすばらしい、魅力的な面があります。」(女性 21歳 中国語)

「広島市は各種の方法を用いて広島市の歴史・現状・経済・文化等の各方面の

ことを中国の人々に理解させるべきです。学術交流を行い、更には留学生に広島市の活動を理解させる。」(男性 30歳 中国語)

- (c)「盲目的な友好を主張するのではなく、何故友好しなければならないのか。お互いにほめあうばかりでなく、互いに厳しいことが言える関係を形成する。盲目的な、基礎のない友好は永続きしない。」(男性 29歳 日本語)

以上、(a)(b)(c)は共に関連しあうものといえよう。総じて相互理解という観点に立った人的交流を要望するものが多い。また、中国に対する理解・認識が低いことを指摘し、広島市・広島大学の役割に期待している。

2. 重慶市民のヒロシマ観——「重慶市青年連合会」に対する調査結果——

当初、重慶市では2種類のアンケート調査を行う予定であった。それは①平和と核を中心とした調査(前出④北京師大の調査紙と同じ)②広島市との友好関係を結ぶことを中心としたもの、である。

しかし、重慶市では1985年11月の中央当局発布の指示により、外国人による如何なる種類のアンケート(意識)調査も認めない、という態度であった。そのため、重慶市青年連合会に調査を全面委託する、という形でおこなわざるを得なかった。全面委託であるために、対象者の選定、実施方法、内容の検討をも含め、集計の形式も全部まかせざるを得なかった。

調査は、2種の調査紙から任意に選択された設問で構成されている。対象は、重慶市当局の青年幹部・青年労働者・大学生・高校及び専門学校生の計100名である。表14は、その内訳であるが、平均年齢22歳である。尚、この100名は全て青年連合会の構成員である。

調査紙は、大きく6問の設問で構成されている(表15)。ベースは②の友好都市関係、である。平和と核に関する設問は意識的に避けられたようである。そのことは、質問内容にもあらわれている。それは質問1の選択肢の中で、「原爆の被害を受けた都市」が除かれていることである。一般的に言って重慶市においては「核=原爆」に関してはタブー的な面があるようである。つぎに個別に質問結果を紹介する。

表14 回答者の構成

青年幹部	26人
労働者	27
大学生	29
高校・専門学校生	18
(男性)	(68)
(女性)	(32)
計	100

〔表15〕重慶市青年連合会のアンケート内容

1. あなたは日本の都市広島を知っていますか。又どんな都市だと思いますか。
 1. 知っている
 2. 知らない
 3. 行政都市
 4. 工業都市
 5. 商業都市
 6. 観光都市
 7. 戦争の被害を受けた都市
2. あなたは、広島市と重慶市が友好関係を深めていることを知っていますか。
 1. 初めて聞いた
 2. 知っている
 3. 知らない
 4. その他
3. あなたはどのような交流対象を希望しますか。
 1. 広島のことをよく理解しており、我々に広島のことを教えてくれる日本の友達
 2. 個人的に自由に往来できる日本の友達・家庭
 3. 広島の特定の大学或いは、企業との関係
 4. 広島のみ民団体或いは、国際交流団体関係
4. あなたは今後、重慶市と広島市の間でどの分野での交流が必要だと思いますか。
 1. 学術交流
 2. 教育交流
 3. 技術交流
 4. 文化・芸術交流
 5. 貿易・外資導入等の経済交流
 6. その他
5. あなたは日本語を学びたいと思いますか。
 1. 非常に学習したい
 2. 学習したい
 3. 関心がない
 4. 回答できない
6. あなたは今後、重慶市青年と広島市青年の間でどのような交流が必要と思いますか。
 1. 不必要
 2. 必要
 3. 青少年の間の相互交流

1. 你知道不知道日本的城市广岛，它是什么样的城市？
 1. 知道，2. 不知道，3. 行政城市，4. 工业城市
 5. 商业城市，6. 旅游城市，7. 遭受战争灾难的城市。
2. 你知道不知道重庆与广岛的友好关系加深了？怎样知道的？
 1. 初次耳闻，2. 知道，3. 不知道，4. 其它。
3. 你希望得到什么样的交流对象？
 1. 希望找到非常了解广岛并能经常告诉我广岛情况的日本朋友。
 2. 希望找到可以与个人自由交往的日本朋友或家庭。
 3. 希望与广岛的特定大学或企业进行联系。
 4. 希望与广岛的市民团体或国际交流团体进行联系。
4. 你认为今后重庆市与广岛市之间哪些领域的交流是必要的？
 1. 学术交流，2. 教育交流，3. 技术交流，4. 文化艺术交流，
 5. 贸易、引进外贸等的经济交流，6. 其它。
5. 你不想学日文？
 1. 非常想学习，2. 想学习，3. 不关心，4. 很难回答。
6. 你认为今后重庆市青年同广岛市青年之间需要进行哪些交往？
 1. 不需要，2. 需要，3. 青少年之间的相互交流。

質問1は、88%の回答が広島を「戦争の被害を受けた都市」としている。(表16を参照。)しかし、その内何%が「原爆の被害を受けた都市」として認識しているであろうか。また、ここでは選択肢3の「行政都市」が0%で、同4「工業都市」が12%も占めている。これは、広島のことは地名・都市名程度には知っているが、正確な知識ではなく、広島市=日本の都市=工業・技術先進国の都市、といった安易な思考パターンから導かれたものではないだろうか。

表17は質問2の結果である。質問3では、日本=広島に対する憧れが大きく反映されていると思われる(表18)。そこに表われている希望は選択肢1・2の比率が高く、個人的な希望が高いといえる。

質問4の結果は表19であるが、各人3個選択したようである。選択肢1・2・3の回答が等しく70%以上あり、現在の重慶市が学術・教育・技術の面での水準向上に意欲的であることをうかがわせる。一方、選択肢4・5の比率が低いが、これは重慶市の「自力更生」の意欲のあらわれとも、また当面の実利を優先する傾向とも推測される。一般に、対外的な貿易関係及び資本導入は決して中国側に

表16

質問1 あなたは、日本の都市広島を知っていますか。また、どんな都市だと思
いますか。

区 分	%
①知っている	97
②知らない	3
計	100

区 分	%
①行政都市	0
②工業都市	12
③商業都市	0
④観光都市	0
⑤戦災都市	88
計	100

表17

質問2 あなたは、広島市と重慶市が友好関係を深めていることを知っています
か。

区 分	%
①初めて聞いた	27
②知っている	73
③知らない	0
④その他	0
計	100

表18

質問3 あなたは、どのような交流対象を希望しますか。

区 分	%
①広島のことをよく理解しており、我々に広島のことを 教えてくれる日本の友人	64
②個人的に自由に往来できる日本の友人・家庭	20
③広島の特定の大学あるいは企業との関係	6
④広島市の市民団体あるいは国際交流団体	10
計	100

表19

質問4 あなたは、今後、広島市と重慶市の間でどの分野での交流が必要だと思いますか。

区 分	%
①学術交流	73
②教育交流	74
③技術交流	70
④文化・芸術交流	30
⑤貿易・外資導入等の経済交流	45
⑥その他	5

(注)複数回答

表20

質問5 あなたは、日本語を学びたいと思いますか。

区 分	%
①非常に学習したい	24
②学習したい	70
③関心がない	0
④回答できない	6
計	100

表21

質問6 あなたは、今後、重慶市青年と広島市青年の間でどのような交流が必要であると思いますか。

区 分	%
①不必要	0
②必要	45
③青少年の間の相互交流	55
計	100

とってよい成果をあげているとはいえない。重慶市にとっても、対外開放以来の成果はあまり有意義なものではないといわれている。交流のあり方・方法については相互の立場を十分に明確化することが必要であろう。

質問5では、94%の者が少なくとも日本語に興味を持ち、学習意欲を持っている。表20が結果である。質問6は、重慶市青年連合会により設問されたものである。今後広島市青年との交流は100%のものが必要と考えている（表21）。

以上が各質問に対する結果である。前述したように、実施側の意図は十分に反映されてはいない。しかし、これがある意味では重慶市の対応のあらわれである。単に「核・戦争・平和」問題の政治性というものでなく、相互理解の欠如が根本に介在しているように思う。この相互理解の不充分さはあらゆる面で表出、存在するものであり、友好関係にあるとはいえ、広島市の対応が今後とも便宜的であってはならないことを示すものであろう。

3. 「自由記述」式に見る戦争観・平和観

1. ④北京師大

質問 11

「日本が日中不再戦の正しい立場をとることには大いに賛成する。しかし日本は原子爆弾の被害を受けたことを忘れてはならないが、同時に戦争を起こし、中国やその他の国家に対して重大な災禍を与えたことを決して忘れてはならない。日中両国が国際関係及び経済・貿易の面で平等互利の原則を守ることを希望する。また、日中両国人民特に青年層が交流・理解を深め、将来にわたって友好してゆくことを望む。」(女性 20歳 中国語)

「我々の祖父母・父母の世代は日本軍国主義の災禍を受けたが、我々青年の世代が努力して、両国人民が将来にわたって友好し軍国主義の復活を阻止することを希望する。また、中日両国が経済・文化の文面での交流をすすめ、互いに前進することを望む。」(女性 18歳 中国語)

「日本政府と日本人民が深刻に中国人民が日本による侵略戦争の中でうけた苦難と、同時に日本人民に与えた戦争の不幸を認識することを希望する。」(女性

21歳 中国語)

「①日本の中曽根首相の靖国神社参拝に対して深く遺憾の意を示す、②現在の日本青年が、彼らの父親の世代が中国侵略戦争の中で犯した罪行を十分に理解していないことに深く遺憾の意を示す。」(男性 20歳 中国語)

「過去日本軍国主義が行った侵略戦争は中国人民だけではなく日本人民にも災禍を与えた。しかし、とくに私の故郷である東北地方は大変な災禍を蒙った。私自身は経験していないが、父母達から話をよく聞き、まるで自分が経験したかのように頭の中に記憶している。我々は、平和を守り、戦争をなくし、徹底的に軍国主義を打倒し、その台頭を阻止しなければならない。また、それが中日間の友好の保証である。」(男性 20歳 中国語)

「日中再戦は許すことのできない非人道的なものと思う。日本が永遠に軍国主義を排除し、真に他国の人民の生命と安全、国家主権を尊重することを希望する。同時に日本政府も自国の国力命運を擁護することを希望する。」(女性 18歳 中国語)

「一人の青年として、また、日本帝国主義の侵略をうけた国民の子孫の1人として、私は先人の流した血を決して無駄にしないし、その死を無駄死にしない、ということを中心に銘じている。私は復讐の思想教育を強め、最も残酷に日本人に復讐する準備をすすめるべきだと思う。」(男性 20歳 中国語)

「現在の日中両国は兄弟の様に親しい。しかし、これは現在のことである。過去をみると、実際は、何となげかわしいことか。私たちの親の世代が受けた苦しみはどこへ訴えればよいのか。過去のことであっても忘れることはできない。しかし、新しい友好という方法の中でしばらくは忘れることはできる。我々中国人は現在と将来を重視している。日本人が我々と友好して行きたいなら、その友好の中で具体的に自己の過失を補償しさえすれば、友人として我々はあつかうであろう。」(男性 20歳 中国語)

「近年日本は経済の優勢を利用して、変種の侵略、即ち日本の一方的な保護貿易を行っているが、中国人民の怒りをかけている。」(男性 20歳 中国語)

「中国がはやく日本の経済的搾取から解放されることを希望する。私は自分をいつか貿易面での平等互利関係樹立のために役立たせたい。」(女性 19歳 中

国語)

2. ③ 広大留学生

質問3について

「広島を歴史上初めての被爆地にしたことには当然歴史的原因があると思う。しかし、どのように言おうとも資料館を参観した後では、人々に核兵器の危険性を認識させ、更には戦争反対を唱えさせ、世界平和を希望させる。広島を戦争反対の拠点、世界平和擁護の前線とすべきと思う。」(男性 29歳 中国語)

「資料館を参観すると原爆の恐怖を感得する。しかし、原爆資料館をただ“原爆の知識の普及の場所”だけにせず、まず戦争責任を追求し、戦争反対の教育の場とすべきだと思う。その意味で言うと、資料館は人々、特に青少年に対する教育という点では十分とはいえない。残念なことと思う。」(男性 28歳 中国語)

「第2次大戦中に日本帝国主義は侵略戦争を發動し、中国の一千数百万の人民を戦火と日本軍隊の暴力の下においやった。しかし、日本人民も原爆の被害をうけた。すなわち、世界平和の為には、まず軍国主義の復活を阻止することであり、その次に核兵器を消滅させることだと思う。」(男性 50歳 中国語)

質問15について

「中国人として悲惨な侵略を忘れることはできないし、軍国主義の復活は絶対許せない。広島は、国際平和文化都市として最近の政界における軍国主義への逆流に決然と反対すべきである。積極的に各種の宣伝を行い、広大な国民に戦争中、中国人民及び広島市民が受けた災難を理解させるべきである。もし、国民全体が戦争に反対すれば、少数の軍国主義分子は戦争を發動できないのだから。」(男性 24歳 中国語)

「日本政府と人民とが、何時、何如なる状況下においても少数の軍国主義分子と、はっきりと一線を画することを希望する。歴史の真实性を尊重し、日本侵略者の犯罪の事実をおおい隠すことなく、アメリカ帝国主義を憎むと同じ様に日本軍国主義をも憎むことを希望する。児童に教育して、中日友好を愛護させ、永遠に中日不再戦の立場を堅持させよう。」(男性 28歳 中国語)

「戦争の体験は、日本社会で良知の人は戦争を深刻に反省し、明確な態度を

とっている。しかし、残念なことに、多くの日本の青年層は戦争に対する認識は甚だ少ないようである。特に日本の中国侵略をいいのがれをし、弁解する現状はとても認めることはできない。」(男性 28歳 中国語)

Ⅳ. 補 編

1. 原爆投下に対する中国共産党の最初の反応（中国共産党機関紙『新華日報』の報道）。

原子爆弾の発明と最初の使用は、全世界を震撼させた。科学の革命と戦争の革命が同じ日に起こったのである。

原子爆弾の真の性能については、われわれはまだ研究・検討に役立てるべき十分な具体的資料をもっていない。しかし、さしあたり入手し得たニュース報道からいって、その破壊力の猛烈さと殺傷性の巨大さは、もはや疑う余地のない事実である。日本侵略者がはじめてこうした人類史上空前の強烈な戦争兵器の攻撃に遭遇したということは、ファシスト侵略者の当然の報いだといえるし、8年来、日本ファシストの野蛮な虐殺をこうむってきたわれわれ中国人民としては、瞞されてきた罪のない日本人民は別として、日本軍閥に対してはなんら憐憫の情をもよおさないのである。しかし、もともと人類生活の幸福のために奉仕すべき科学が、かくも悲惨な破壊と殺傷性をもつ武器に応用されたということについては、われわれは全人類、とくに科学に献身する全世界の学徒がきわめて深刻な感慨を抱くにちがいないと信じる。

純粹に科学的な見地からいえば、原子爆弾の発明は、原子の分裂によって発散する一種の“エネルギー”の実際的应用であり、疑いなく一つの画期的革命である。種々の“エネルギー”を制御する装置がいったん完成すれば、産業革命は生彩をうしない、蒸気エンジン・内燃機関・水力タービンは旧時代の遺物と化し、石炭や石油の競争から惹起される政治的角逐もその意義をうしなうにちがいない。

こうした“原子エネルギー”を建設的な動力や平和な工業生産に応用するならば、人類の文明は必然的に画期的な革命、進歩をとげるであろう。だが今日、不幸にもこの人類の歴史を左右するに足る重大な発明は、その鋭鋒をまず無数の殺傷をともなう戦線に試用されたのである。

自然科学の発達は、ヨーロッパの暗黒な封建社会をくつがえし、市民階級を台

頭させ、近代文明の原動力を創造した。18世紀末から19世紀初めにかけて、科学者はなお社会革命の前線に立ち、一個の闘士として人類の幸福に献身した。年若い科学と年若い階級はともに肩を組み、当時あっては、『科学に殉じる』ことと『真理に殉じる』こととは同意義のものであった。

だが、ブルジョアジーが成長、成熟し、やがて老衰化するにいたって、この階級の手で左右されてきた科学も、やはり自己の階級的利益に奉仕することによって、しだいに全人類の幸福と利益のためという本来の目的と背馳するようになった。生産的なものから消費的なものへ、人間を活かすものから人間を殺すものへと進むことは、もはや科学的精神の没却であり、冒瀆である。

戦争においては、率直に言って一般人は、科学者に対して暗々裡に警戒し、畏怖の念を抱いている。イギリスの有名な科学者ヘイドン教授は、イギリスの総選挙の時に『彼らはなぜ科学を恐れるのか』という論文を発表し、人民大衆が科学を恐れることについて深い感慨を表明した。実際、今次の戦争の目的が戦争をなくすためであるにせよ、科学者が孜孜として従事してきた活動の成果がロケット、地震爆弾、細菌弾から原子爆弾にまで利用され、いずれも一瞬のうちに何千何万という人の子、人の夫、人の父を殺傷できるということは、疑いもなく人民の眼から見れば、恐るべき事実である。

たとえば、原子爆弾研究の責任者であるアンダーソン卿は17日（7日の誤りか？……筆者）、ロンドンでのラジオ講演において、『これは人類のために幸福をもたらすこともできるし、人類にこの上ない破壊をもたらすこともできる』、したがって、『こうした原子爆弾を活用するには政治家の崇高な精神が必要であり、国連で政治家が協議して決めるべきである』と述べている。まさに、その通りであり、科学が人民の手中に握られる時には人類に幸福をもたらすが、ファシスト侵略者の手中に握られた場合は、人類が絶滅させられる。したがって、原子爆弾は平和を維持する強力な道具とすることもできるし、逆に侵略と武力濫用の武器とすることもできる。人類の叡知の最高の成果たる科学的発明は、全世界の平和を愛する人民全体によって保有され、試用され、管理されるべきであり、こうした科学的発明＝無尽蔵な“原子エネルギー”は、人類の福祉をはかる方向に使用されるべきである。このように、一瞬にして何千何万という人命を奪う武器

は、国連の安全保障理事会でその使用を統制すべきである。このことは今日、すでに世界の進歩的科学家と人民大衆の双肩に課せられた責任である。

科学を人民のものとし、科学の成果を、平和を守り、人類に幸福をもたらす道具としなければならない。

——「時評 従原子炸彈所想起的」(『新華日報』, 1945年8月9日, 重慶)

2. 中国人留学生の被爆体験 (原題 由 明哲「私の遭遇した原子爆弾」)

原子爆弾が広島に投下されて以来、広島は世界で有名な都市の一つとなった。広島は日本南部に位置する工業都市であり、南側は海に面し著名な軍港の呉・広島が近くにある。市内の工商業は発達し、本州南部の文化の中心であり、広島文理科大学は市の中心地区にある。1945年に私はこの大学で物理学を学んでいた。

1941年に太平洋戦争が開始され、1945年7月までに米軍機は幾度も日本の各大都市を爆撃した。しかし、広島はさしたる重大な被害を受けることもなく、当時では日本で唯一の幸福な都市とみなされてもいた。1945年8月5日午後9時に米軍機が呉港を空襲し、6日の午前5時まで広島市では空襲警報が解除されず、市民は一睡もできなかった。私たち中国人留学生も防空壕の中で一夜を語りあかした。恐ろしくはなく、反対に爆撃は当然だとさえ思った。何故なら爆撃されているのは日本であり、日本帝国主義は我々の敵だったからである。

8月6日の朝食後に警戒警報が発せられた。私が学校に着いた時は7時半になっていた。この時警報が解除になり、私は直ちに実験室でX線の結晶撮影の実験にとりかかった。8時15分前後に、突然光線が一閃し、私はトランスのヒューズがとんだと思った。しばらくして注意してみると、ただ太鼓の様な音が聞こえるだけで、知らない間に床に倒れていた。起きあがって見ると、部屋中土煙りで満ちており、はっきり見わたせず、廊下の方で叫び声が聞こえた。私は手さぐりで室の外に出て、防空壕へ走った。途中で空を見ると、青空の晴れあがっていた空が今や淡い黄色に変わっていた。この時ある日本人の同級生がやって来た。彼の体は出血しており、私も自分を改めて見たところシャツが血で染まっていた。そこで家へ帰ろうと思い、防空壕を出て町へ出て見ると家屋は崩れ倒れ、多くの

けが人がいた。私はこの時多くのことを顧みず、ひたすら東へ、10数キロ走った。12時ごろに市外の学校へたどりついた。ここには、すでに臨時の救済所が設けられていた。私はただの皮膚からの出血だと思い治療を受けには行かなかった。そこでまた東方へ向い山の上の人家にたどりついた。

当時、一般の人々はまだ、これが原子爆弾の爆発だとは知らなかった。しかし、みんな普通の爆弾ではないと思っていた。日本の新聞は新型爆弾といい、広島の人々もこれを『ピカドン』とっておき、その意味は『光が一閃すると音がした』である。後になってウラン原子で作った原子爆弾と知ったが、重量は約千トンでそのうちウランは1キロ前後にすぎなかったが、通常火薬約2000トンの爆破力を持ち、投下には落下傘を用い、地上数100メートルの空中で爆発した。放射線による光・熱・震動が破壊力を作り出した。投下前は青天であったが、以後、空は淡く黄色くなり、2時間後には一陣の雨も降った。放射線の影響は一週間もつづいた。この原子爆弾の被害の及んだ範囲は半径約5キロの円内であり、破壊力は爆心から離れる程小さくなっていった。室外で直接光線で焼死した人が多く、次には室内で間接的に圧死した人が多かった。この他、爆撃後市外から救助に来て放射線により死亡した人もいた。

広島は投爆以前はあまり警報がなかったため、市民は普段防空壕へ行くことはなく、通常室内で仕事をしていた。この日は市外の学校や村から多くの人が市内にやって来ていた。日本の建築物はあまり堅固ではなく、大多数は木造家屋であり、道はせまく、市民は防空の経験がなかった。これが被害を大きくした原因である。

原子爆弾が投下された時、私は文理科大学の建物内にいたが、爆心からは1キロ離れており直接照射をあびることはなかつたが、ガラス片で傷を受け、倒された。わずか2週間で疲労・無力感を感じ、5カ月後に医者の検査を受けると白血球が減少していた。ビタミンCとホルモンの注射を10数度受けて、健康はやっと回復した。

原子爆弾が世界の人々の驚きと注意を引きつけた後、アメリカ帝国主義は大げさな宣伝をし、世界の人々を威嚇した。更には、原子爆弾の落下された所では、草木も育たず、人も生存できない、というデマを流した。しかし、私が自分の眼

で見た事実とはちがう。広島の被爆した所では、1月後には草の芽が出た。また、私の同級生で、当時同宿していた朱定裕女士は、私よりも重傷を負いながらも、去年（1949年）に丸々とした男の子を生んだ。これらの事実は、アメリカ帝国主義の荒唐無稽なデマと脅迫が、反論する価値もないことを証明している。いわんや、もし原子爆弾が投下される前に堅固な防空壕に入り、白い服を着、投下後も直ちに10km離れて休息しさえすれば安全無事なのだから……。私は被爆経験者であるが、現在では祖国に帰り、元気に学習している。このことから見ても、原子爆弾はアメリカ帝国主義が吹聴するほど恐ろしいものでは、決してない。

——由 明哲「我所碰到的原子彈」，原載は『人民日報』1950年11月11日，『新華月報』第3卷第2号。

